

**確認試験** 本品 1 mL を過マンガン酸カリウム試液 (1 → 20) 5 mL に加え、希硫酸 2 mL を加えて 2 分間振り混ぜ、更にクロロホルム 20 mL を加えて振り混ぜた後、クロロホルム層をとり、これを水浴上で蒸発するとき、残留物はベンズアルデヒドのにおいを発する。この残留物を無アルデヒドエタノール 5 mL に溶かし、2,4-ジニトロフェニルヒドラジン試液 1 mL を加えるとき、だいたい色の沈殿を生じる。

**屈折率**  $n_D^{20}$ : 1.538 ~ 1.541

**比重**  $d_4^{20}$ : 1.043 ~ 1.053

#### 純度試験

(1) 溶状 本品 1.0 mL を水 40 mL に溶かすとき、液は無色澄明である。

(2) 酸 本品 10 mL に中和エタノール 10 mL, 0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 0.20 mL 及びフェノールフタレイン試液 2 滴を加えるとき、液の色は赤色である。

(3) ベンズアルデヒド 本品 1.0 mL に水を加えて 100 mL とし、その 10.0 mL をネスラー管にとり、水を加えて 25 mL とし、2,4-ジニトロフェニルヒドラジン試液 1 mL を加えて混和し、5 分間放置するとき、濁り及び浮遊物を認めない。

(4) 塩素化合物 炎色反応試験 (2) を行うとき、緑色を呈しない。ただし、本品 2 滴を用いる。

**強熱残分** 0.005 % 以下 (20 g, 蒸発後)。

**蒸留試験** 202.5 ~ 206.5 °C, 96.0 vol% 以上。

**定量法** 本品約 0.5 g を精密に量り、ピリジン/無水酢酸混液 (17 : 3) 10 mL を正確に加え、還流冷却器を付け、水浴上で 30 分間加熱する。冷後、水 25 mL を加え、過量の酢酸を 1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する (指示薬: フェノールフタレイン試液 2 滴)。同様の方法で空試験を行う。

1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL = 108.14 mg  $C_7H_5O$

#### 貯法

**保存条件** 遮光して保存する。

**容器** 気密容器。

## ベントナイト

Bentonite

本品は天然に産するコロイド性含水ケイ酸アルミニウムである。

**性状** 本品は白色～淡黄褐色の微細な粉末で、においはなく、味はわずかに土ようである。

本品は水、エタノール (95) 又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品は水に入れると膨潤する。

#### 確認試験

(1) 本品 0.5 g に薄めた硫酸 (1 → 3) 3 mL を加え、白煙が発生するまで加熱し、冷後、水 20 mL を加えてろ過し、ろ液 5 mL にアンモニア試液 3 mL を加えるとき、白色ゲル状の沈殿を生じる。これにアリザリンレッド S 試液 5 滴を加えるとき、赤色に変わる。

(2) (1) の残留物を水で洗い、メチレンブルー溶液 (1

→ 10000) 2 mL を加え、次に水で洗うとき、残留物は青色を呈する。

**pH** 本品 1.0 g に水 50 mL を加え、振り混ぜて懸濁した液の pH は 9.0 ~ 10.5 である。

#### 純度試験

(1) 重金属 本品 1.5 g に水 80 mL 及び塩酸 5 mL を加え、20 分間よく振り混ぜながら穏やかに煮沸し、冷後、遠心分離し、上澄液をとり、沈殿を水 10 mL ずつで 2 回洗い、毎回遠心分離し、上澄液及び洗液を合わせ、アンモニア水 (28) を滴加し、沈殿がわずかに生じたとき、強く振り動かしながら希塩酸を滴加して再び溶かす。この液に塩酸ヒドロキシアニモニウム 0.45 g を加えて加熱し、冷後、酢酸ナトリウム三水和物 0.45 g, 希酢酸 6 mL 及び水を加えて 150 mL とする。この液 50 mL をとり、これを検液とし、試験を行う。比較液は鉛標準液 2.5 mL に塩酸ヒドロキシアニモニウム 0.15 g, 酢酸ナトリウム三水和物 0.15 g, 希酢酸 2 mL 及び水を加えて 50 mL とする (50 ppm 以下)。

(2) ヒ素 本品 1.0 g に希塩酸 5 mL を加え、よく振り混ぜながら沸騰するまで穏やかに加熱し、速やかに冷却した後、遠心分離する。残留物に希塩酸 5 mL を加えてよく振り混ぜ、遠心分離する。更に水 10 mL を加え、同様に操作し、全抽出液を合わせ、水浴上で加熱濃縮して 5 mL とする。これを検液とし、装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下)。

(3) 異物 本品 2.0 g を乳鉢に入れ、水 20 mL を加えて膨潤させ、乳棒で均等に分散させた後、水を加えて 100 mL とする。この分散液を 200 号 (75  $\mu$ m) ふるいを通し、水で洗い、ふるい目の上を指でこすとき、砂を感じない。

**乾燥減量** 5.0 ~ 10.0 % (2 g, 105 °C, 2 時間)。

**ゲル形成力** 本品 6.0 g を酸化マグネシウム 0.30 g と混ぜ、水 200 mL を入れた 500 mL の共栓シリンダーに数回に分けて加え、1 時間揺り動かし、その懸濁液 100 mL を 100 mL のメスシリンダーに移し、24 時間放置するとき、上層に分離する澄明液は 2 mL 以下である。

**膨潤力** 本品 2.0 g をとり、水 100 mL を入れた 100 mL のメスシリンダーに 10 回に分けて加える。ただし、先に加えた試料がほとんど沈着した後、次の試料を加える。これを 24 時間放置するとき、器底の塊の見かけの容積は 20 mL の目盛り以上である。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ボウイ

Sinomenium Stem

SINOMENI CAULIS ET RHIZOMA

防已

本品はオオツツラフジ *Sinomenium acutum* Rehder et Wilson (*Menispermaceae*) のつる性の茎及び根茎である。

**性状** 本品は円形又はだ円形の切片で、厚さ 0.2 ~ 0.4 cm, 径 1 ~ 4.5 cm である。両切面の皮部は淡褐色～暗褐色を呈し、木部は灰褐色の道管部と暗褐色の放射組織とが交互に放射状に配列する。側面は暗灰色で、縦みぞといぼ状突起がある。